

新たな産学連携の形態

—横幹連合と横幹技術協議会の連携によるプロジェクト活動—

井上 雄一郎*

1. 背景

横幹連合と横幹技術協議会はそれぞれ学界・産業界を基盤として横幹科学技術の深化・普及に連携して活動を行っているが、その特徴的な活動の一つにプロジェクト活動がある。

最近の産業界の実問題は多くの要素が複雑に絡み合っており、複数専門分野の専門家の横断的な協調による問題解決の仕組みが不可欠となりつつある。横幹連合・横幹技術協議会は、産業界の実問題に複数分野・複数機関の専門家がチームを作って解決にあたる仕組みを模索してきた。

イノベーションが声高に叫ばれる中、産学連携への期待はますます高まっており、大学側も専門の推進組織を設けるなど積極的に推進している。しかしながら連携の形態の多くは、企業 - 1 研究室、企業 - 1 研究機関であり、複数分野にまたがる課題の解決には限界がある。

2. 多分野専門家チームによる F S

プロジェクトには、企業の個別・固有の課題を対象とする個別プロジェクトと、企業に共通の課題を扱う共通プロジェクトがある。ここでは個別プロジェクトについて述べる。企業からの課題提起を受けて、ソリューション発見の可能性を検討する F S (Feasibility Study) の流れを Fig. 1 に示す。

企業から提起される課題の F Sを進めるため横幹技術協議会にプロジェクト委員会が設けられている。これは横幹連合の産学連携委員会のメンバーが担当しており、文理にまたがる多分野の専門家で構成されている。

課題提起を受けたプロジェクト委員長は課題の内容に関連する分野の委員と合議し、F Sチームのメンバーを選任する。メンバー選任をサポートするため、横幹連合では会員学会から登録されたスペシャリストデータベースを用意している。これは各分野の専門性ととも産学連携活動に意欲的な方を推薦いただいております。現在 340 名余の専門家が登録されている。

F Sチームは課題を提起した企業の関係者も含めて検討を行い、現状の科学技術レベルで、求められる水準のソリューションを求められる期間内に発見できる可能性を検討する。

これらの検討はすべて守秘契約を締結して行われ企業

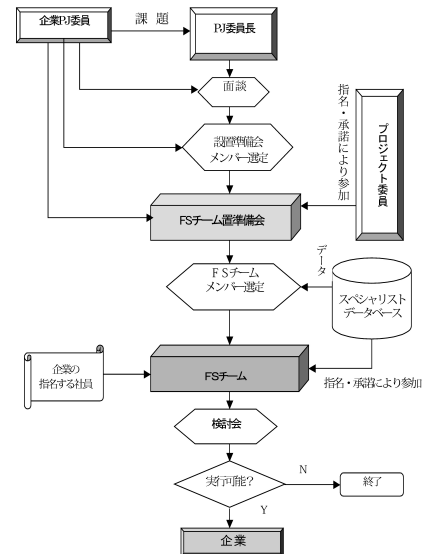


Fig. 1: Feasibility study for Individual Project

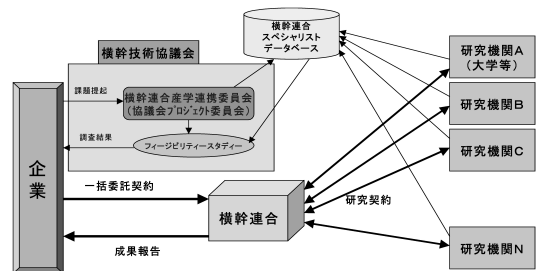


Fig. 2: Mediation between Industry and Academy

機密保護に配慮している。

実行可能と判断された場合、企業は自らの判断と責任において研究委託契約・共同研究契約等を行う。

3. 横幹連合による一括受託

企業が複数の研究機関と契約する場合、それぞれの研究機関ごとに契約形態や契約書式が異なるケースが多く、企業側の負担となっている。Fig. 2 に示すように、横幹連合では企業と複数研究機関の橋渡しを行うシステムを提供している。

4. 今後への期待

これまでに 4 個別プロジェクトと 1 共通プロジェクトがスタートした。まだまだ多くの課題を抱えているが、産学連携の新たな可能性として拡大していきたい。産業界および学界の参加とご支援をお願いする次第である。

*横幹連合事務局 東京都文京区本郷 1-35-28-303